

■雪村友梅 禅僧。臨濟宗一山派。中国で辛苦しながら、詩集「眠峨集」で不朽の名を得て帰国、武将らが敬慕した傑僧。
せつそんゆうばい
・ ・ ・ ・ ・ 1290＝ 越後白鳥で土豪一宮氏に生まれる。誕生前、信濃の土豪出身の母が東大寺の梵鐘を呑む夢を見たという。

平禅門の乱・1293＝ 3歳：
幼くして神童ぶりが知られ、

一山一寧来日1299＝ 9歳：この頃、一建長寺の一山一寧に入門、他の二人の喝食とともに可愛がられ、友梅の名を与えられ、円覚寺との間を往来していた師の籠かき小僧などする。
後に元の人に“天性の華音”といわれるほど、中国語に習熟するとともに、師の人格と学識に傾倒、

・ ・ ・ ・ ・ 1304＝14歳：一京に上って、比叡山で得度受戒後、
一建仁寺に入り、

当時の禅僧の中国への留学熱に従い、
・ ・ ・ ・ ・ 1307＝17歳：一日本商船と元税関の間で紛争・焼打のあった寧波から入元、師から紹介の湖州道場山叔平和尚に参じ、
將軍追放交替1308＝18歳：一長安から峨眉山・大都と中国内を2年かけて修行し、
・ ・ ・ ・ ・ 1309＝19歳：一道場山に戻ると、藏主に拔擢されるが、

一寧波事件での日本人取締り強化にかかって逮捕され、救出に動いた師叔平は捕縛され獄死してしまう。

・ ・ ・ ・ ・ 1313＝23歳：一斬首の段になって、無学祖元の話にかかる偶を誦し、その気迫で刑の執行は延期となったが、長安に護送・翠微寺に幽閉されるも、江南地方に名声が広まる。

・ ・ ・ ・ ・ 1315＝25歳：一さらに遠方の蜀の成都に流され、蜀に入った初の日本人となる。

文保御和談・1317＝27歳：この年、一師一山一寧が死去。

後醍醐天皇・1318＝28歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1323＝33歳：ようやく城内に移された。***長い幽閉の間に、蜀の大自然を詠じた詩集「眠峨集」で、名声は不朽となる。**

北条分家執権1326＝36歳：一大赦令が出て釈放されると、なお、名勝等回って詩を詠じながら、長江を下り、
・ ・ ・ ・ ・ 1327＝37歳：一廬山に至って東林寺に入り、日本人僧とも再会。元の仏教界最高峰古林清茂から激賞も受け、
・ ・ ・ ・ ・ 1328＝38歳：一皇帝文宗から翠微寺住持に任じられ、宝覚真禅師の称号を贈られた後、日本から招聘された元僧明極楚俊と同行を申し出た竺仙梵僊とともに、22年ぶりに帰国。

・ ・ ・ ・ ・ 1330＝40歳：***かつての師一寧の塔所建長寺玉雲庵の住持となった後、信濃諏訪社の名族金刺満貞に招かれて、慈雲寺に住し、続けて、諏訪神官一族神為頼が創建した徳雲寺の開山となる。**

・ ・ ・ ・ ・ 1332＝42歳：さらに、在京御家人小串範秀に招かれ、嵯峨西禅寺住持となり、範秀の孫で後の太清宗渭も入門。

鎌倉幕府滅亡1333＝43歳：

二条河原落書1334＝44歳：大友氏泰に招かれ、豊後万寿寺住持、

中先代の乱・1335＝45歳：

南北朝分裂・1336＝46歳：

この間、多くの詩や法語をつくり、
・ ・ ・ ・ ・ 1337＝47歳：禅律奉行となった小串範秀を介し、一赤松円心が播磨赤穂に建立した法雲寺の住持に迎えられる。
宝林寺を経て、上洛し、洛西西禅寺入寺。
・ ・ ・ ・ ・ 1340＝50歳：一足利直義から京都万寿寺の住持に招かれるて固辞するも、

一光厳上皇が円心に勅旨し、
・ ・ ・ ・ ・ 1343＝53歳：一その説得で受け、京都万寿寺住持となる。
・ ・ ・ ・ ・ 1344＝54歳：一中風に悩まれたこともあって、ひっそりと東山清住庵に退くも、
・ ・ ・ ・ ・ 1345＝55歳：***建仁寺住持に命じられ、盛大な入院式が語り草になり、**
・ ・ ・ ・ ・ 1346＝56歳：***法会の導師を務めている最中に脳卒中となり、医者や投薬を謝絶して、没した。**
著書に「宝覚真空禅師語録」とがある。法嗣に雲溪支山・太清宗清・蘭洲良芳ら多数がいる。